

日本側拠点機関名	愛知県公立大学法人 愛知県立芸術大学
日本側コーディネーター所属・氏名	美術学部デザイン専攻教授・柴崎幸次
研究交流課題名	現代に生きる“手漉き紙と芸術表現”の研究 ～サマルカンド紙の復興を中心に～
相手国及び拠点機関名	ウズベキスタン共和国・National institute of fine art and design named after Kamoliddin Bekhzod (以下ウズベキスタン芸術大学) 中華人民共和国・大連民族大学 大韓民国・檀国大学校

研究交流計画の目標・概要

【研究交流目標】交流期間(最長3年間)を通じての目標を記入してください。実施計画の基本となります。

本研究は、ウズベキスタンと日本、中国、韓国の芸術大学において、“手漉き紙”文化と“芸術表現”をテーマに調査・復興・再生を目指し、美術やプロダクト、文化財保存修復に応用できる紙と技法を開発する活動を、芸術大学の連携により成し遂げるための芸術・文化拠点の形成を目指している。

“紙”は、人類の根源的な文化形成における重要なメディアとして発展と交流、多様化を繰り返してきた。しかし、古来から伝わる“手漉き紙”文化は世界的に衰退傾向にあり、それらは大量生産時代の経済性や生活そのものの近代化など需要の変化によるものである。例えばウズベキスタンのサマルカンド紙は、硬筆によるカリグラフィー(書)やミニアチュール(細密画)の支持体として世界で最も美しいと言われた紙であるが約200年前に途絶えている。また、日本の和紙もユネスコの世界文化遺産として国際的な評価を得ているにもかかわらず、現在も衰退傾向が続き、後継者不足、従事者数の減少などに多くの問題を抱えている。

一方、紙の歴史や伝播をみると、タラスの戦い(751年)以降、この拠点形成を目指すアジアの国々は、過去1300年以上さかのぼっても“紙の道”として強いつながりを持つ関係にある。近代以前の紙の製法は人力と自然力によるもので、地域性、歴史性を象徴する多くの文化の跡が潜んでおり様々な情報を読み解くことができる。また紙に書(描)かれた文字や図、絵画などの表現は、日本、中国の古典絵画や、ウズベキスタンのミニアチュールなど、文化、経済、宗教など様々な目的の情報伝達を果たしてきた。

この“手漉き紙と芸術表現”の課題を芸術大学の連携により研究することは、国際的な芸術の分野において地域性と時間軸を縦横に結ぶ文化を融和させる取り組みであり、単なる伝統的な紙や技法の復元ではなく、新たな技術や概念を形成し、現代ニーズに向き合うメディアとプロダクトを生み出しうる研究交流の形を目指すことができる。また本計画はウズベキスタンのサマルカンド紙の復興を軸に、紙の道(アジアを結ぶペーパーロード)として、日本側のリーダーシップと中国、韓国との協働により、保存修復の文化事業や新素材の開発、新しい芸術活動への応用など“手漉き紙と芸術表現”の意味を現代において再定義し、各国の独自性と多様性の表出による地域文化の醸成を目指すことを目標としている。

【研究交流計画の概要】 共同研究、 セミナー、 研究者交流を軸とし、研究交流計画の概要を記入してください。

“手漉き紙と芸術表現”のあり方を見出す調査研究として、まずは各国の紙文化の歴史評価(中国紙、韓国紙、サマルカンド紙、和紙、さらに洋紙)と古典絵画(絵巻、山水、仏画、イスラムのミニアチュールなど)、現代絵画、版画など、芸術表現の紙との関係について調査を行う。中でも200年前に衰退し資料の少ないサマルカンド紙関連の調査を共同で行い、特性分析や各時代の紙の調査、ペンなどの硬筆に適したサマルカンド紙と洋紙文化圏への発展経緯を見極める。また毛筆に適し中国から朝鮮半島を経て伝わった和紙への表現に対する同時代分析、さらに輸出品として流通した国際的な紙の交流を中心に調査を実施する。

セミナー共通のテーマは、「現代に生きる“手漉き紙と芸術表現”とは」を掲げている。各国で1年毎に展示発表を伴うセミナー、意見交換、視察(紙生産地、博物館等)を開催する。各国テーマは、Revival & Grow(復活と進化)[ウズベキスタン]、Origin(起源)[中国]、Diversity(多様性への評価)[日本]とし、さらに付加価値の高いメディアとプロダクトの開発、オーダーメイド紙(多品種少量)の生産、現代における手仕事文化の復権、紙の持つ情報価値などの議論を想定している。

研究者交流としては、“紙からつくる芸術表現行動”をテーマに、“紙”ありきで制作に入る態度を見直し、新たなオリジナリティを生み出す活動として各国の若手育成の要としたい。その上で“手漉き紙”文化の再定義により新たなメディアとプロダクトの開発を試み、表現技術(古典技法から先端技術まで)を交流の上、作品制作と国際交流展での発表をもって本研究を推進する。

サマルカンドペーパー再定義
→洋紙の原点

ウズベキスタン

西洋紙文化

◎紙文化が伝播した地

サマルカンド紙工房

Revival & Grow

ウズベクセミナー
平成 29 年度

JICA ウズベキスタン事務所

◎今後の交流強化

ミニアチュール作家連との連携

ウズベキスタン芸術アカデミー

名古屋大学
ウズベキスタン事務所

ウズベキスタン芸術大学
(タシケント)

★ウズベキスタン
作家とのつながり

ウズベキスタン国立歴史博物館
サマルカンド郷土史博物館

- ① 真のサマルカンドペーパーとは
→特性の分析、材料の分析
- ② ミニアチュールの調査
- ③ コーランのカリグラフィー調査
- ④ 紙の復活により歴史を読む!

ウズベキスタン芸術ビエンナーレ

平成 30 年度

国際交流展 手漉き紙と芸術表現 “紙からつくる芸術表現行動” 若手育成プログラム

デザイン教育シンポジウム

留学・研究実績

大連民族大学 (大連)

中国

Origin

◎紙発祥の地

紙の道 (ペーパーロード) の
伝播研究と芸術表現

チャイナセミナー
平成 30 年度

紙の調査対象

檀国大学校

中央美術学院 (北京)
四川大学 (四川)

洋紙文化へ発展

ヨーロッパへ伝播



羊皮紙等の代用
(申請者撮影)

伝播以降、
初の紙工場
サマルカンド
757 年

紙の伝播の要因

タラスの戦い
751 年

紙の道 (4国を結ぶペーパーロード)

Uzbekistan

イスラム教化文化圏

サマルカンド紙

中国黄河流域: (後漢書)
105 年

仏教化文化圏

Korea

Japan

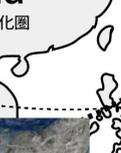
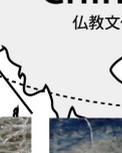
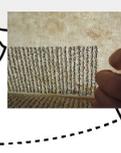
610 年~和紙へ発展
702 年 正倉院文書
(最古の紙、多様な紙)

日本

イギリスから洋紙

1872 年

サマルカンド紙の
調査→
右: イスラムの
教科書 (申請者撮影
タシケントにて)、
左: ミニアチュール
(16 世紀、イラン、
申請者撮影
ミュンヘン五大陸
博物館所蔵許可済)



ミニアチュールには、
様々な紙が使われている。
歴史の中で、様々な紙の文化が残る可能性。

現在の鞣皮による
サマルカンド紙。
繊維は和紙に近い。
(申請者所蔵・撮影)

200 年前のサマルカンド紙。
布であった痕跡、繊維の独
特の縮れから
(申請者所蔵・撮影)

漉き紙 学生作品
(申請者撮影)

近代デザインへの目覚め
藤井達吉 (申請者蔵、撮影)



東寺蔵「両界曼荼羅圖」
現状模写
(愛知県立芸術大学
保存修復研究所)



本證寺蔵「聖徳太子絵伝」
現状模写
(同 保存修復研究所)

平成 31 年度
ジャパンセミナー

日本

Diversity

世界紙会議 (ipmawc)
の誘致 平成 32 年

ものづくり
サポートセンター

豊田市美術館

豊田市民芸館

最新技術
・電子顕微鏡調査
・成分分析
・表現技術支援
・制作技術支援

豊田市
和紙のふるさと

知の拠点あいち

共同研究の実績
・製紙技術支援
・原料栽培支援
・和紙文化拠点として

愛知県立芸術大学

愛知県立大学

文化財保存修復
研究所

日本文化研究
・正倉院文書の研究
・ロボット技術の活用
・語学研修
・教育プログラム開発

事務体制
芸術情報課
学務課・学生支援国際連携係

分析
保存修復
A
分析、評価
改善
B
芸術創造
計画
C
展示、発表、
報告
D
手漉き紙の制作
研究

芸術大学の制作活動において、
“紙” から制作するムーブメント

和紙工房
手漉き紙の制作
(和紙・洋紙の制作)
研究
研修・教育普及

愛知県立芸術大学
芸術創造センター

小津和紙
ギャラリー (東京)

絵巻、山水、仏画
日本画、版画

和紙再評価
→日本の手漉き和紙文化

和紙素材の研究
(大学院特別研究)

和紙 モデル

◎ユネスコの世界遺産
「和紙 日本の手漉 (てすき) 和紙技術」
美濃和紙、石州半紙、細川紙、
さらに、愛知県、高知県、石川県、福井県...

★地域に根ざす、日本の和紙から、
地域風土歴史の多様性を知る。

全国 42 力所の
和紙工房